

令和4年9月議会倉田議員一般質問



通告 2. 新聞社による新火葬場建設計画のアンケートでは、新市長は市長候補者として「再検討の余地あり」とされ「経緯や意見の整理」や「必要なら実施計画にこだわらない」と答えている。その発言に対する責任と誠意ある実行についての質疑応答全文

私的な反訳による速報であり、正式には議事録にて確認願います。

倉田議員） 2. 新聞社による新火葬場建設計画のアンケートで、新市長は市長候補者として「再検討の余地あり」とされ「経緯や意見の整理」や「必要なら実施計画にこだわらない」と述べられている。その発言に対する誠意と責任ある実行について。ということです。添付資料の①をご覧ください。

①令和2年11月に私と当時の松山副議長、谷村産業建設委員長、同石原副委員長で教団とお会いした時、教団は自分たちから土地寄付を働きかけてはいないとはっきり言われました。それを基に市に問うと、「市から寄付を働きかけてはいない。有償か無償かは聞かなかったが、教団が所有土地の利用提供を申し出た」という回答でした。

大萱候補地が最終3候補地に残った当時、教団に直接連絡をして経緯を質した丹生川地区の1市民があつて、その内容を私直接お聞きしました。それは大萱の教団所有土地が市の候補地になった経緯についてですけど、市の担当課が教団を訪れ「火葬場の土地がなくて困っている」と窮状を訴えたので、教団は所有土地三カ所を提示した。そのうちのひとつが大萱で教団は大萱は地形的に適さないかなと思ったが、市はそこを選択したというものです。また市が教団からの土地寄付申し出を検討委員会へ報告するときには、「教団として地元住民の了解がなければ寄付できない」と市に伝えたが、「住民も了解しているし説明会も行っているので大丈夫だ」と市に言われ、教団は申し出書を提出した。ま、こういった教団からの聞き取り内容だったと丹生川の住民の方は私に情報提供された。

ま、その住民証言を確認するために、令和3年の9月議会中に会派で教団を訪れました。教団は訪問に対し若干難色を示されていましたが、最終的に質問項目を事前にFAXする事で受けて頂きました。私は「えっ」思いましたが、何か別のことも感じ取れる気がして、我々の聞き取りのことを市には内聞にお願いするとあえて書き記して質問項目をFAXさせて頂きました。聞き取りで教団は丹生川町住民との接触は認められましたけども、情報内容は否定されました。また市が主張していた土地提供が有償か無償かは検討委員会に促されて

教団に打診するまでは知らなかったという点については、無償提供は伝えたつもりだったが市がそう言うのなら自分たちの伝え方が悪かったのだろうと、寄付も知らないのに特別の意図が争うはずはないとしたいという、市の言い分との違いをソフトにくるんだ言い回しだったというふうに記憶しています。

そのほんの数日後、一般質問で丹生川住民の証言についてお尋ねをした時の前市長（國島市長）の答弁です。これは会議録です。「先週倉田議員は教団の担当者の方々とお話をされて、その経緯をしっかりと確認されたのではないかと思います。その折にも私が伝え聞くところによれば、私どもが申し上げているような経緯を当事者の方からお聞きになられたと承知をしております。それらについて私どもについては別に異議はございません」。ま、どうでしょうかね。倉田が内緒を頼んだところでちゃんと自分に情報は入ると、質疑の内容まで把握していて市と教団は回答も一致しているから疑われる筋合いはない。自分が答えなくてもあなたが教団から聞いた答えで十分でしょ。ま、そういう意味の答弁ですよ。すごい連係プレイだと感じるのは僕だけでしょうかね。ま、そういう経緯があつてつい先日 8 月 20 日に掲載された中日新聞の記事。新聞社の取材に対し崇教真光教団は土地の寄付を決めた理由と経緯に関して、市当局の担当者より話を頂いた。と答えられています。市から土地寄付を持ちかけられたという確かな回答であったと、記者にも確認を取らせて頂いたところです。

このことはある時期から市に歩調をあわせるその前に教団が言っていた事。丹生川住民が最初に教団から聞き取っていたことと完全に一致します。しかしながら市は全面否定を続けてきて、全面否定を続けてきたことでありこれまでの言動を根本から覆す画期的な証言答弁です。この新聞証言により 候補地選定の当初から市にその意図があったことが明白となり、市の選択の公平性は崩壊したものと受け止めています。

丹生川候補地ありきの強引な理論展開とも符合します。この点以外に市の発言の不整合と迷走ぶりはこれまでも議論の俎上に上げてきました。全市民、検討委員会、議会等の信頼を裏切る事にもつながる事案に対し、田中市長にはご自身の『経緯や意見の整理』において市役所の中の身びいきと採られないしっかりとした検証を今後頂きたいと考えます。それについての見解を伺います。

田中市長）ただ今ご質問ありました建設地の土地寄付の申し出の件につきましては、あの今議員さんは議員さんの立場でお調べになった事をここで公表して頂いたということで理解いたしますし、私は選挙期間中にはいろんな方からいろんなお話をききました。ま、その正否につきましてはあのいろんな方がいろんな事をおっしゃるので、なかなか判断できにくいところがあるんですけど、そういった部分を含めてもう一度経緯についてはしっかりと検証させて頂きたいと考えています。その事実関係をはっきりさせて頂いた上で、火葬場の事業をそ

のまま進めるのか、或いは立ち止まるのか、そういったことを判断したいと思っておりますので、そういった意図で新聞社のアンケートには答えておりますのでよろしくをお願いします。

倉田議員 はい、ありがとうございます。新聞社にお答えられたとうりの整合するご答弁だったと思います。

②番、検討委員会が三候補地を答申した後は、市がフラットな目線で最終候補地を選ぶとしています。そこで市が最重要要件としたのは、景観上人目につかない場所でした。私たち創政・改革クラブは「市民が望む要件」とは本当にそれなのか、最終選考の基準は市民の思いが行政の都合よりは優先されるべきではないのかとの考えから、昨年 15,000 部の市民アンケートを行いました。勿論バッシングも頂く中で 1,170 部の回答を得て、國島前市長に対し本年 1 月に中間報告を、同 4 月に最終報告をお届けしました。西倉副市長からは「市が行うべき事を代行頂きありがたい」とねぎらいのお言葉も頂きました。アンケートの通知結果と回答はがきにびっしり書き込まれた沢山の市民意見を、前市長にお届けしているのです。是非田中市長の「経緯や意見の整理」において、しっかり参考にして頂きたいと思っておりますのでお願いいたします。

具体的には資料、添付書 2 ですけれども、その一つ目と言いますか

1 点目として、市が候補地の最重要要件とした「人目につかない場所」というのは、市民感覚から根拠がきわめて薄いばかりでなく、亡くなった市民の尊厳に対する市の感覚にむしろ憤りを感じているという市民が多かったこと、

2 点目として丹生川候補地は火葬場として遠くて不便だと言う声が多かったこと。それについては以前に示した「人口重心表示図」や私たちの実測の「到達所要時間表」に加え新（添付）資料 3 として、行き来に伴う CO2 の排出量比較調査票も検討させて頂きました。

3 点目として大萱候補地への経路が特に冬期は非常に危険であると感じる市民が大変多いということ。これについては市の道路建設における斜度基準 8% 未滿を大きく超える箇所が複数箇所存在している調査結果資料、また市の維持課発表の積雪量の比較調査結果資料も資料 3 で示させて頂きました。

4 点目、特定の宗教団体の関与は避けるべきだと考える市民が多数あること。これについては先ほど示させて頂きました。

以上 4 点について加えて、なぜ市はこの件に関しいろいろ事実を隠そうとするのかという点、新火葬場の建設検討委員を務められた外部専門知見のお一人でさえ、答申後の経緯から当時十分な情報を市から与えられていなかったという事例についてのご不満を、公的な場で発言されたい言うようなことを聞いています。これらについては是非新市長の「経緯や意見の整理」の中で身びいきにならない確たるご検証を頂き、今後の誠意と責任ある行動に繋げて頂きたいと思っ

ています。市長の考えを伺います。

田中市長 新火葬場建設事業につきましては、これまで有識者とか市民の代表の方で組織する検討委員会によって、調査検討を重ねられて候補地 3 件を順位付けて答申をされたと。その後市が三件の候補地の中から建設案を選定しましたけれども、建設検討委員会における検討段階から議会であるとか市民の方々のご意見を聞きながら進めてきた事業であるという事は、私はそういうふうに捉えております。あのまた福祉・文教委員会さんの方から議会のですね、特に市民広く市民に対して誠意を持って説明責任を果たし、課題への対応・対策にあたるようにと意見を付されていることも承知しております。私自身先ほど申し上げましたけれども、選挙期間中には多くの方からご意見を頂いております。今後新火葬場の建設を進めるに当たりましては、先ほど申し上げたように誠意であるとか様々な意見、或いは議会のこれまでの対応やっ頂いておりますし、勿論検討委員会の答申も出ておりますので、あの丁寧に対応する中で課題をしっかり洗った上で事業を進めていきたいとしておりますので、決して身びいきとかそういったことは考えておりません。